

令和8年度 一般選抜（後期）

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 試験開始の合図があった後、最初に問題用紙と解答用紙の確認を行ってください。**問題用紙は A4 版片面 1 枚（表紙は除く）で、解答用紙は A3 版片面 1 枚**です。枚数の不足、重複のないことを確認してください。
また、印刷が不鮮明な場合は、手を挙げて試験監督員に知らせてください。
3. 受験番号の記入漏れ又は誤記があった場合は失格になります。
4. 解答は、解答用紙に、**横書き**で記入してください。
5. 下書きは、別紙の下書き用紙を使用してください。
6. 数字 2 文字以上を続けて記入する場合は、次のように記入してください。

例① 2025年

→

20	25	年
----	----	---

例② 99.9%

→

99	.9	%
----	----	---

7. 濁音（が、ぎ、ぐ・・・）、半濁音（ぱ、ぴ、ぷ・・・）は 1 文字として記入してください。
8. 体調不良やトイレに行きたい場合などは、黙って、手を上げてください。
それ以外の途中退室は認めません。
9. 試験監督員の試験終了の合図と同時に解答するのをやめて、着席したまま試験監督員の指示を待ってください。
10. 解答用紙は、未記入のものも含めすべて回収します。なお、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰って構いません。

令和8年度 一般選抜（後期）小論文試験問題

【問】

次の文章を読み、筆者が少子化について「本当に解決すべき問題だと言えるかどうかは、意外と難しい」と述べるのはなぜかを 200 文字以内で要約し、我が国において少子化になっても機能する社会システムについて、保健・医療・福祉の視点から、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

【課題文】

少子化が起きていることは疑いようもない事実だが、それが本当に解決すべき問題だと言えるかどうかは、意外と難しい。経済成長ばかりに着目すると、人口減少は働き手の減少や国力の低下に直結するわけだから、「産めよ、増やせよ」がどうしても正解になる。しかし、地球温暖化などの環境問題が突きつけたことは、地球や資源が有限であるということだった。全体の量が限られているのに、人口増ばかりにこだわれれば、結果は火を見るより明らかだ。有限な環境の中で持続的な社会を作り上げていくためには、ある程度の人口減はむしろ歓迎すべきことだといえる。「地球にやさしい」「環境にやさしい」という曖昧模糊*な表現は、私はあまり好きではないが、地球や環境にとっては自分たちを都合のよいように変えたり汚したりする人間の数が少ないほど、地球が長持ちすることは間違いない。つまり、ある社会問題に即してみれば少子化は憂慮すべき事態だが、別の社会問題に照らせば少子化はむしろ歓迎すべき事態になる。

（中略）

少子化は政策でどうにかなる問題では決してないと私は思う。つまり、政治の問題ではない。この点はいくら強調してもし過ぎることではない。少子化は、もっと根の深い倫理や価値観の問題である。「こどもはいらない」「欲しくない」あるいは「こどもは一人でもいい」と考えるカップルや「結婚に価値は見いだせない」「男女交際そのものが面倒くさい」と感じる若者が増えたことを政治の力で変えようとしても、限界がある。一時的に効果のあがる政策はあるだろうが、それは小手先の対策に過ぎない。現代日本人の生き方や考え方を奥の奥から根こそぎ変えなければ、少子化は食い止められない。

どうもこの点をはき違えている人が多いのではないか。特に政治家にその傾向が強いように思う。政治の役割は、少子化を多子化へと誘導することによって現行のシステムを維持させることではない。逆ではないか。現実に行進している少子化は、価値や倫理の変容の現れなのだとまずしっかり受けとめる。そして、その流れに逆らわず、少子化になっても機能する社会システムを再構築すべきなのではないか。政治でできることはそこまでだろう。少子化そのものを食い止めたいならば、日本人の価値観全体をもっと根底から変えていかなければならない。

※ 曖昧模糊…物事の内容・意味がはっきりせず、ぼんやりしているさま。

【出典】

山本史華、「日常のなかの生命倫理」、梓出版社、2018、p.207-209.